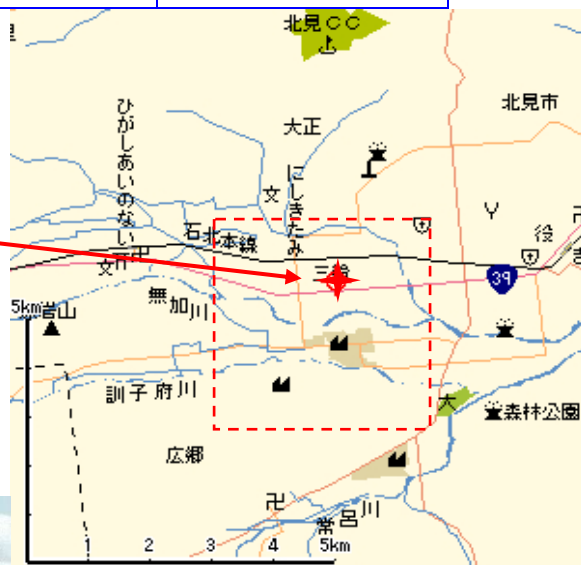
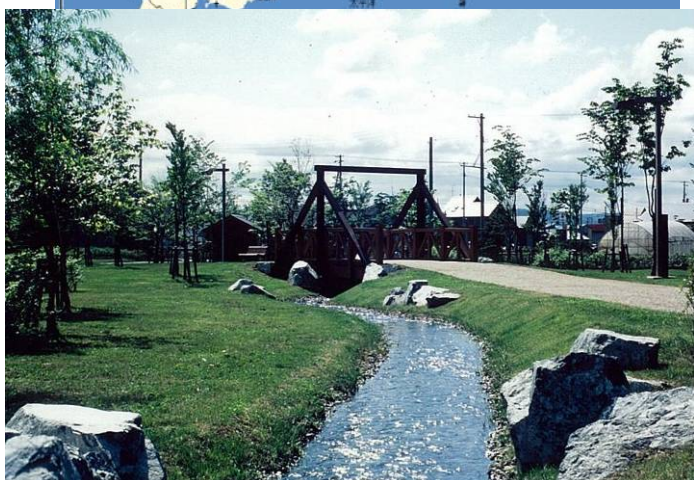


5 北海道 北見市 ホリカン川

水源	導水方法	導水箇所	水環境上の問題
河川水	新規水路 自然流下	河川・水路	親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



対象地域の概要

・地域の概要

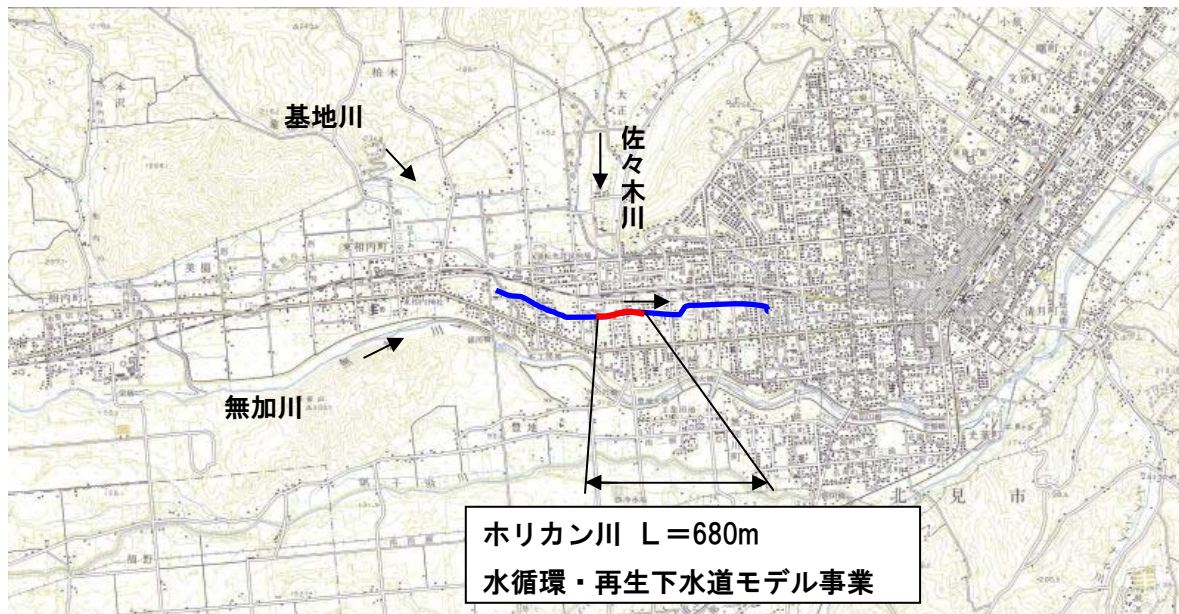
北見市は平成 18 年 3 月 5 日に北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の 1 市 3 町が合併し、新北見市が誕生しました。合併後の面積は約 1,400km² となり、全国でも有数の広さを有する市となりました。

北見市は北海道の北東部のオホーツク海側に位置し、北見盆地の平野部に中心市街地が形成され、市内を南西から北東へ無加川や常呂川が貫流しています。

北見市は内因性気候で年間の降水量が少なく、日照率が全国の中でも特に高い地域で、ソーラーカーレースが行われています。農作物もジャガイモ、玉ねぎ等多種類に及ぶ地域です。

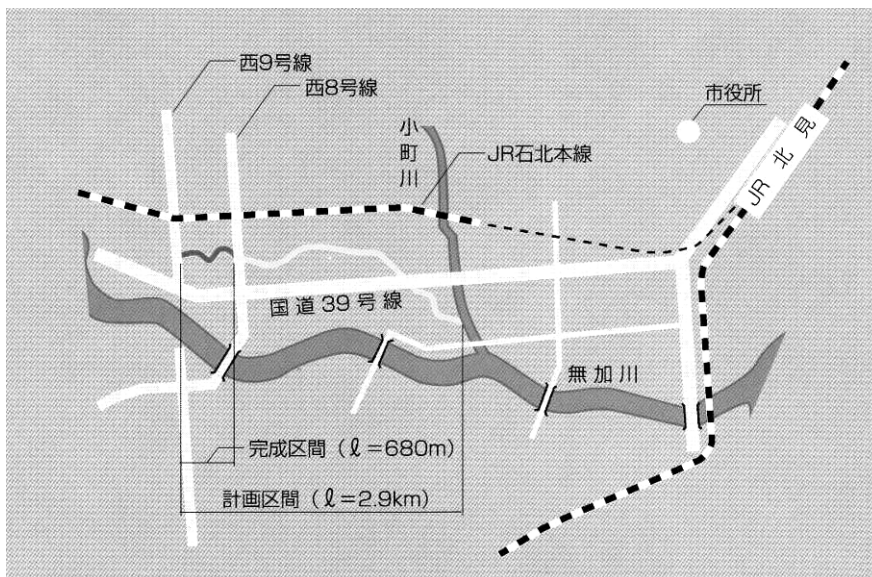
・対象水域の概要

北見市内には、常呂川本流をはじめ、ホリカン川、無加川、訓子府川、仁頃川、入馬川、小町川、小石川、シュブシュブナイ川などの中小河川が流れており、これらは全て常呂川水系に属します。常呂川水系の水質汚濁源は、製造業等の工場排水、農畜産系排水及び生活排水であり、昭和 47 年以前、常呂川水系は汚濁が進んだ河川でしたが、工場排水の処理施設や公共下水道の整備に伴い河川の汚濁は年々改善されてきました。常呂川環境基準（水質汚濁に係る水域類型の指定）が昭和 45 年 9 月に設定され、旧北上浄水場取水口跡上流では A 類型（BOD2mg/L 以下）、下流では B 類型（BOD 3mg/L 以下）と定められました。また平成 4 年 6 月に常呂川流域に位置する 1 市 5 町（当時：北見市・置戸町・訓子府町・留辺蘂町・端野町・常呂町）は、「常呂川水系環境保全対策協議会」を設立し、常呂川水系における総合的な環境保全対策を推進しています。



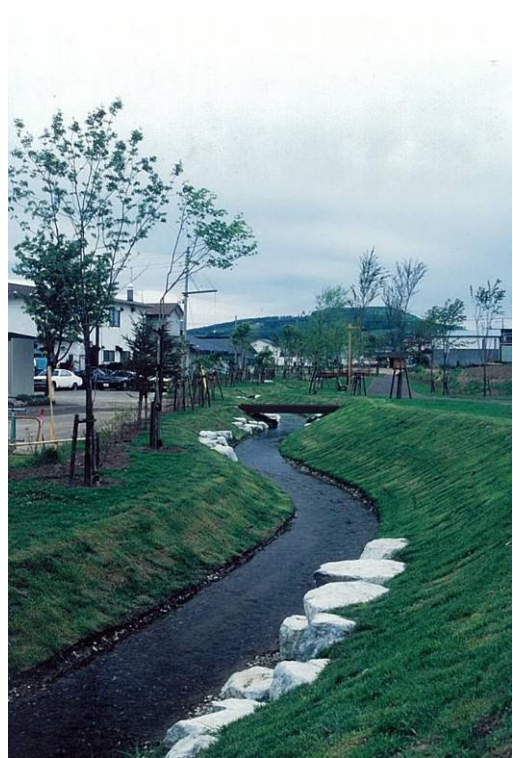
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">対象地域の概要</p>	<p>また北見市では昭和 63 年の集中豪雨により浸水被害が生じたため、親水対策及び公共用水域への影響の観点から、平成元年度に下水道の「分流化基本計画書」を策定し、平成 2 年度に合流区域の分流化の認可を取得し、逐次整備を進めています。</p> <p>ホリカン川は、北見市の中心からやや西側にある三輪地区を流れ、小町川にそそぐ延長 2.9 km の準用河川です。この川は、かつて幅 1～5m の掘り込み河川でしたが、流域の市街化に伴い浸水被害が発生するようになり、洪水対策の実施要望がありました。</p> <p>このため北見市は、この水路を廃止し雨水管を地中に埋設する事業を実施し、平成 5 年度に完成しました。「ホリカン川水循環・再生下水道モデル事業」は、この雨水河川事業によって失われてしまった水の流れを再生し、市民がうるおいや安らぎを感じることができる快適な水辺空間の創造的再生事業として行った事業です。その後、地域の要望として「失われたホリカン川の創造的復元事業」としてせせらぎ水路創造的復元を実施しました。事業計画に当たっては、せせらぎ水路に使用する水の問題がありましたが河川水の利用で実現しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水環境上の問題：水質悪化・悪臭 生態系悪影響 親水性・景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水質悪化・悪臭：河川水の利用のため特に問題は発生していない。 ・ 生態系悪影響：不明。 ・ 親水性・景観：雨水管の整備により水辺空間が失われていた。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">導水事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 [目標像] 目標は特に設定していませんが、事業の計画にあたり地域の住民参加型により住民要望などを取り入れた計画になっています。施設の配置など地形や修景に配慮したせせらぎ水路や植栽、ベンチ、東屋が配置されています。 ・ 導水方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホリカン川の水を 自然流下 ・ 雨水を一部利用しせせらぎ水路上流部に通水 ・ 水源 ホリカン川 ・ 施設緒元 事業区間のホリカン川は上水水路と下部水路で構成される二層河川となっています。下部水路は区間内の雨水を流下させる機能を持ち、上部水路は晴天時には修景用水、雨天時には修景用水及び敷地内雨水を流下させる機能を持っています。

<p>導水事業の概要</p>	<p>水路床は、水漏れ・凍害防止のため、コンクリート底盤とし、その上に防水シート、粘土、玉石層を設けることにより、自然的水路整備を図りました。</p> <p>・費用 [内訳] ＜初期費用＞ — ＜維持費用＞</p> <p>現在北見市の公園係で施設の維持管理を行っているが施設の草刈りなど維持管理費が年間 4 百万円程度かかっています。</p>
<p>NPOとの協働</p>	<p>協働の背景</p> <p>この事業では地元町内会代表を募った意見収集と、整備方針に関するアンケート調査により、地域住民の計画参加を果たしました。これにより「自然的整備方針」とすることを行政と住民側の両者間において確認し、計画・設計を進めました。</p> <p>このせせらぎ遊歩道は、散歩、ジョギング等の健康づくり、通学などを地域住民に親しまれており、平成 15 年度から平成 17 年度の3年間より市民植樹祭を実施しました。</p> <p>役割分担</p> <p>北見市企業局下水道課：計画立案、事業実施 北見市公園緑地課：施設完了後の維持管理費用確保、維持管理の実施 三輪地区自治会：ホリカン川水循環・再生下水道モデル事業の計画参加</p> <p>今後の課題</p> <p>事業実施時にホリカン川の沿線自治会が計画参加を行っているため、問題点は住民の策定会議等で検討されていたようであり、アンケート結果があります。</p> <p>事業実施後の課題は、施設の草刈りや維持管理費が年間 4 百万円程度かかることが課題と予測されます。</p>
<p>関連情報 その他 関連事業</p>	<p>ホリカン川は農用地と静かな住宅地の境にあり、比較的平坦な地形の中にある河川です。使用水をホリカン川より自然流下として経済的な方法で実施しています。</p> <p>他の河川で河川水を利用する場合ポンプアップなどが必要ですが、水車や風力、ソーラー発電などの併用や、雨水貯留などの併用を検討することが経費節減につながると判断しています。設備投資と維持管理費のバランスの双方を検討することが重要です。</p>
<p>ヒアリング提供及び先</p>	<p>【ヒアリング先】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北見市企業局下水道課（ホリカン川水循環・再生下水道モデル事業） <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業パンフレット「アクトピアさたみ ホリカン川 水循環・再生下水道モデル事業」北見市
<p>参考 下 書</p>	<p>北見市 HP：北見市の下水道について http://www.city.kitami.lg.jp/kitkigyoy/151-1/151-1.htm</p> <p>北見市 HP：水緑景観事業 http://www.city.kitami.lg.jp/kitkigyoy/151-17/151-17.htm</p>

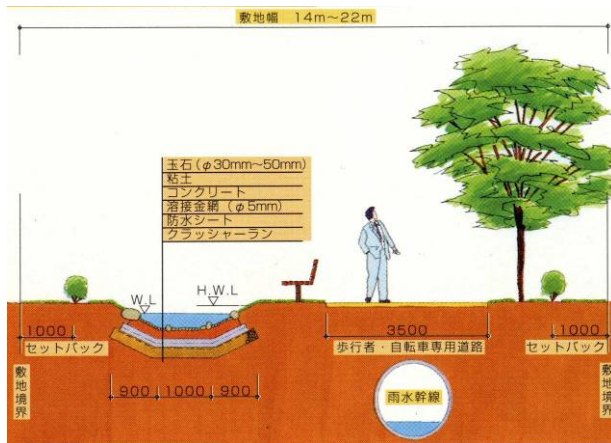


ホリカン川（水循環・再生下水道モデル事業）位置図
 資料：「ホリカン川」事業パンフレット，北見市下水道局下水道課





整備された水辺の様子



ホリカン川の二重構造

